

第 38 回国際 P2M 学会秋季研究発表大会結果報告

大会実行委員長	青山学院大学	玉木 欽也
大会実行副委員長	青山学院大学	中邨 良樹
実行委員	青山学院大学	薄上 二郎
実行委員	青山学院大学	高松 朋史

1. はじめに

2024 年 11 月 9 日（土）に、青山学院大学青山キャンパスにて（図 1）、第 38 回国際 P2M 学会研究発表大会が開催されました。今回も、2022 年の春季研究発表大会から続けているハイブリッド型（会場・オンラインのいずれでも参加・発表可能）での開催としました。



図 1 青山学院大学青山キャンパス

2. 大会実施内容

大会テーマは、「SDGs/ESG/CE サステナビリティと P2M」としました。今回の大会では、研究発表と基調講演に加え、交流・議論の場として、2023 年春季研究発表大会以来の新しい企画として発足した「ラウンドテーブル」を、継続して実施することにしました。

2. 1 研究発表【午前の部】

今回は、23 件の発表があり、A 会場（地方創生・地域実装・SDGs・パンデミック）、B 会場

(近代の P2M・ビジネス企業実装・変革・グローバル連携・人材育成)、C 会場 (社会実装・P2M 理論・循環型経済・PBL) の 3 トラック並行での発表となりました (図 2～図 5)。

対面型での発表においてもオンラインでの発表においても、それぞれの発表において、活発な討論、有効な意見交換が行われました。

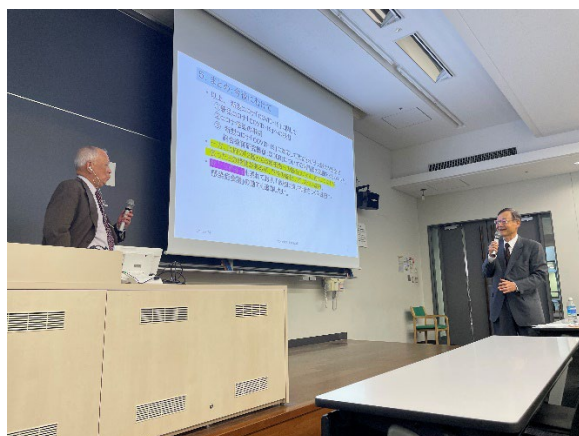


図 2 A会場での発表の様子

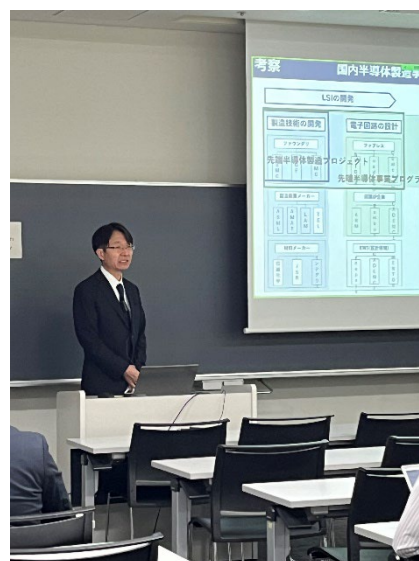


図 3 B会場での発表の様子



図 4 C会場での発表の様子

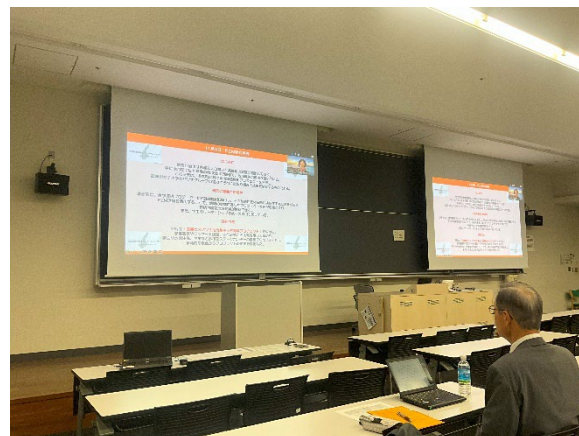


図 5 オンラインでの発表の様子

2. 2 開会挨拶とオープニング【以下、午後の部】

亀山秀雄会長から開会挨拶、大会実行委員長 青山学院大学 玉木欽也教授からオープニングが行われました。

2. 3 基調講演

以下のような基調講演が行われました

講演(1) 『博士人材の活躍促進に向けて』

文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課長 奥篤史氏

講演(2) 『P2M 人材の重要性と博士号取得による人材育成の意義』

日本プロジェクトマネジメント協会 理事長 加藤亨氏
講演(3) 『社会課題解決に取り組む来年度新規開学予定大学院大学の狙い』

教育テック大学院大学 (2025 年 4 月開学) 事務局長 織田竜輔氏



図 6 奥篤史氏による基調講演



図 7 加藤亨氏による基調講演



図 8 織田竜輔氏による基調講演

2. 4 ラウンドテーブル

前述したように 2023 年春季研究発表大会以来から発足した 3 つの「ラウンドテーブル」を継承して実施しました。今回のテーマと各テーマのオーガナイザーは次のとおりです (図 9 ~12)。

・テーマ 1 【現地会場開催】：マネジメント力強化と国際競争力向上に向けた新たな P2M 博士人材育成戦略～リスクリング政策を活用した日本の未来創造～

オーガナイザー：亀山秀雄 (国際 P2M 学会)

・テーマ 2 【現地会場開催】：P2M で語る地域活性・環境・SDGs、教育ーリベラルアーツとしての P2Mーを視野において

オーガナイザー：岡田久典 (早稲田大学)

- ・テーマ3 【ハイブリッド開催】：P2Mを活用した組織変革の推進
オーガナイザー：小笠原秀人（千葉工業大学）



図9 テーマ1の会場



図10 テーマ1の会場



図11 テーマ2の会場



図12 テーマ3の会場

各ラウンドテーブルでは、参加者全員でテーブルを囲み（ラウンドテーブル）、オーガナイザーの司会のもと、発表と議論を進行しました。

大会テーマ「SDGs/ESG/CE サステナビリティとP2M」のとおり、さまざまな所属の方々が集まり、これまでの実績や経験などに基づいて活発な意見交換が行われていました。セッション終了後も、参加者同士で意見交換をする光景が数多く見られました。P2Mを大いに語る中で、それぞれのテーマにおいて現状の課題や今後の方向性などが見えてきたのではないかと思います。

ラウンドテーブル終了後は全員が集まり、大会実行副委員長 青山学院大学 中邨良樹教授の司会で、各テーマの内容紹介とふりかえりが行われました。

2. 5 閉会挨拶と次回の大会予告

久保裕史副会長から開会挨拶と、岡田公治教授（東京都市大学）から次回の春季研究発表大会の紹介をしていただきました。

3. 情報交換会

発表会場から外部レストランに場所を移し、なごやかな雰囲気の中、参加者同士の交流を深めることができました。

4. おわりに

大会実行の企画・運営の大役を賜り、多くの人々に支えられ、特に大会企画委員会の委員の皆様のご尽力をいただき大会を完遂することができました。ご登壇頂きました講演者の皆さま、最新の研究成果を発表頂きました研究者の皆さま、大会に参加頂き議論を深めて頂きました全ての参加者の皆さま、貴重な経験の機会を与えて頂きました国際 P2M 学会理事の皆さま、亀山秀雄会長に心より感謝申し上げます。

2024 年 12 月 20 日受領